

《生活習慣病の患者さん意識調査報告》

**あなたは自分自身の治療目標値を知っていますか？
血圧、脂質、血糖の治療目標値を正確に知らない患者さんも。**

財団法人日本心臓財団^{*1}（事務局：東京都千代田区、理事長：志立託爾 以下、日本心臓財団）は、脳卒中や心臓病などの予防を目指して、生活習慣病のより良い治療の実現をサポートする活動を行っています。この度、その一環として生活習慣病患者さんを対象に、治療に対する意識調査を行ったところ^{*2}、自分自身の検査値を知っている人は多いものの、治療目標値を正確に知らない人は少なくなく、患者さんは医師に対して個別でよりきめ細かな説明や指導を求めていることが明らかになりました。以下に、主な調査結果をお知らせいたします。

全国の生活習慣病患者さんに、その治療についての思いや医療従事者に伝えたいことを尋ねました

高齢社会を迎えたわが国では、血圧、脂質、血糖の適切な管理によって脳卒中や心臓病などを予防して、健康長寿を実現することが喫緊の課題になっています。そうしたなか、各疾患の関連学会がまとめた治療ガイドラインでは、さまざまな臨床研究のデータに基づいて、脳卒中や心臓病の発症の危険性が低下すると認められる値が、治療（管理）目標値として示されています。しかし現実には、治療中の高血圧患者さんの50%、脂質異常症患者さんの30%は目標値を達成できていないことが報告されており^{*3}、生活習慣病の管理は十分とはいえない状況です。そこで、全国の医療機関を通じて、生活習慣病の治療を受けている患者さん約1万3000名にアンケート用紙を配布して、生活習慣病治療に関する患者さんの思いや医療者に求める事項を尋ね、郵送によって3,578通の回答を得ました。

高血圧患者さんの27%、脂質異常症患者さんの42%、糖尿病患者さんの22%は、

自分自身の治療目標値を正しく知らない

医療機関で治療を受けている高血圧患者さんで自分自身の検査値を知っている人は97%、同じく脂質異常症患者さんでは84%、糖尿病患者さんでは95%に達していましたが、治療の目標値を正しく知らない人は、それぞれ27%、43%、22%に及んでいました（図1～3）。また、治療に積極的に取り組んでいるとの回答は39%に過ぎず、55%は「積極的にとはいえないが、薬はいわれたとおりに飲み続けている」、2%は「まわりからいろいろ言われるのでしかたなく薬を飲んでいる」という消極派でした（図4）。

現在受けている生活習慣病の治療には満足しているが、

自分のためのきめ細かな指導を望む人が多い

現在受けている生活習慣病の治療に対する満足度は、「満足している」が 58%、「どちらともいえない」が 34%、「満足していない」が 2%でした（図 5）。続いて、医師や医療従事者に伝えたいことを複数回答で選択してもらったところ、「一般的なことはよくわかっているので、自分に適したきめ細かな指導を行ってほしい」が 1,312 例（37%）で最も多く、「治療の目標や見通しについてもっと詳しく説明してほしい」が 765 例（21%）、「生活習慣を変えるのは難しいので、生活習慣の改善について専門的な立場から相談にのってほしい」が 657 例（18%）でした（図 6）。

今回の調査結果について

藤田正俊先生 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻医療検査展開学 教授

近年、脳卒中や心臓病の予防の観点から、科学的根拠に基づいて設定された治療目標の実現を目指す治療が重視されてきました。それにもかかわらず、実際の医療の現場では、その達成率の低さが問題になっています。今回の調査で、2~4 割の患者さんが自分自身の治療目標値を知らないと回答したことに、その原因のいったんが現れていると思います。

生活習慣病の治療効果をあげるには、医師と患者さんが共通の認識をもって、治療目標にむかってパートナーとして取り組むことが大切です。治療の方法や目標値は個々の患者さんによって違いますから、医師や医療従事者のきめ細かな個別指導が求められていると言えるでしょう。これは、今回のアンケート調査で得られた、患者さんの望むこととも一致する、重要なポイントと考えます。

篠山重威先生 京都大学名誉教授、日本心臓財団「生活習慣病改善プログラム」中央推進委員長

私はこの調査で、ほとんどの人が、自分自身の検査値を知っているのに自分はどこまでの改善を目的にすればよいかという目標値を正しく知らない人が多いことと、それぞれの患者さんが、「一般的なことはよくわかっているので、自分に適したきめ細かな指導を行ってほしい」と希望していることに特に注目したいと思います。

医学は人間学であって個人の科学であります。健康という概念は人間の行動にかかわるもので、生物学的データで画一的に取り扱うことはできません。多角的な広い視野を持って取り組まねばならないと思います。地球の生物圏の不均一性はヒトの間にも見られます。これまでの科学は普遍性を探求してきましたが、全ての生き物は多様性を特徴とすることを忘れてはなりません。日本心臓財団では、これまで心血管病の予防のための患者さんに向けた様々な啓発活動を行ってきましたが、それに加えて 2009 年からは医療者が患者さんとなるべく望ましい形で対応が出来るように「生活習慣病改善プログラム」を展開しています*4。今回の調査結果を見て、このプログラムの重要性を改めて痛感しました。

この調査の結果は、医師と患者の間には密接なコミュニケーションが必要であることを強く示すものですが、医師は人間学的視点に立って、患者さん一人一人の苦痛を自分の物として考え画一的な対応に終わらないことが重要だと思います。医学は病者の悲哀に対する共感を動機とする学問であるからです。

*1 財団法人 日本心臓財団とは（ホームページ <http://www.jhf.or.jp/>）

財団法人 日本心臓財団は、心臓病と脳卒中を制圧することを目的に1970年に設立された民間の公益法人です。心臓血管病に関する研究開発の助成、心臓血管病に関する予防知識の国民的普及啓発活動、心臓血管病制圧に関する国際交流・国際協力の実施を中心に活動し、これらの事業を通して医学の向上と国民福祉の向上に寄与することを目指しています。

*2 「生活習慣病改善指導の実態と、その受け止め方に関する患者さんアンケート調査」概要

日本心臓財団が、生活習慣病の患者さんを対象に実施したアンケート調査です。

【調査主体】 財団法人 日本心臓財団

【調査対象】 医療機関で薬物療法実施中の生活習慣病患者さん

【調査期間】 2010年8月20日 ～ 12月20日

【調査方法】 アンケート形式（回答は郵送）

*3 「わが国における、生活習慣病とその薬物療法の現状と課題：寺本民生ほか：Progress in Medicine vol. 30 No. 5: 1437-1449, 2010」より引用

*4 生活習慣病改善プログラムとは

日本心臓財団が企画・運営する、高血圧・脂質異常症・糖尿病など生活習慣病治療を実施している医師のためのインターネット上のプログラムです。患者さんの検査値と日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、日本糖尿病学会から出されている治療目標値との比較、生活習慣のチェック、治療経過のグラフ表示、施設全体での管理目標達成率のチェックなど、各々の医師が担当する患者さんの統計処理などを可能にするシステムで、治療計画や生活習慣改善などについて、医師と患者さんとのコミュニケーションに役立つと期待されています。

◆本リリースに関するお問い合わせ◆

株式会社ヌーベルプラス内 生活習慣病に関する患者さんアンケート調査運営事務局

担当：藤本尚子

TEL 03-3814-4455 FAX 03-3814-3388 e-mail: info@LSMP.JP

◆調査主体の所在◆

日本心臓財団事務局 担当：細田泰司

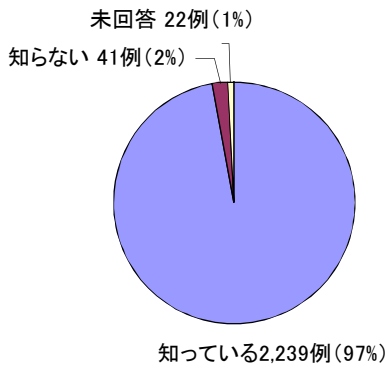
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル 835 区-A

TEL : 03-3201-0810 FAX : 03-3213-3920 e-mail: lsmp@jhf.or.jp

図1

高血圧患者2,302例の血圧値の認知状況

自身の検査値認知状況



自身の治療目標値認知状況

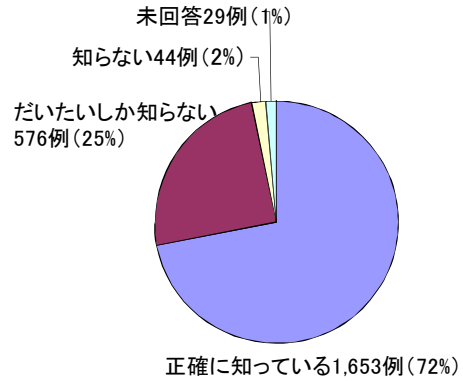
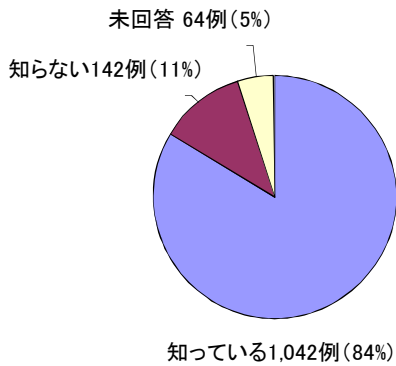


図2

脂質異常症患者1,248例の脂質検査値の認知状況

自身の検査値認知状況



自身の治療目標値認知状況

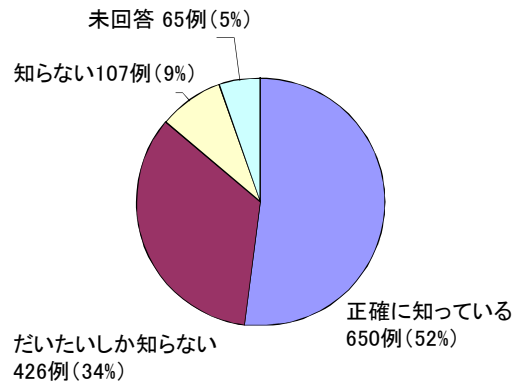
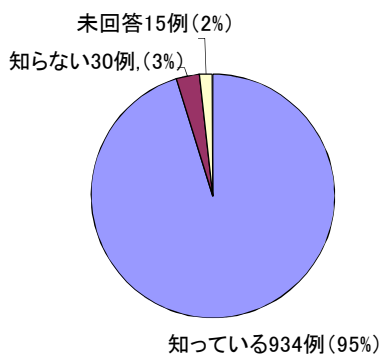


図3

糖尿病患者979例の血糖検査値の認知状況

自身の検査値認知状況



自身の治療目標値認知状況

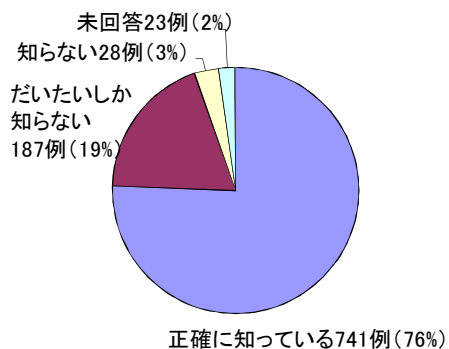


図4

生活習慣病の治療への取り組み

生活習慣病患者3,578例

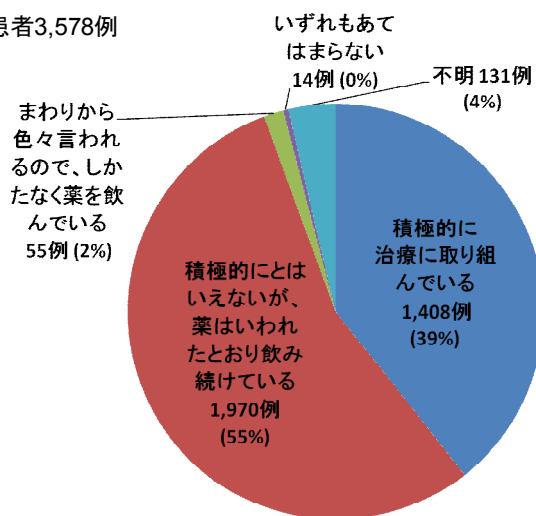


図5

現在の治療への満足度

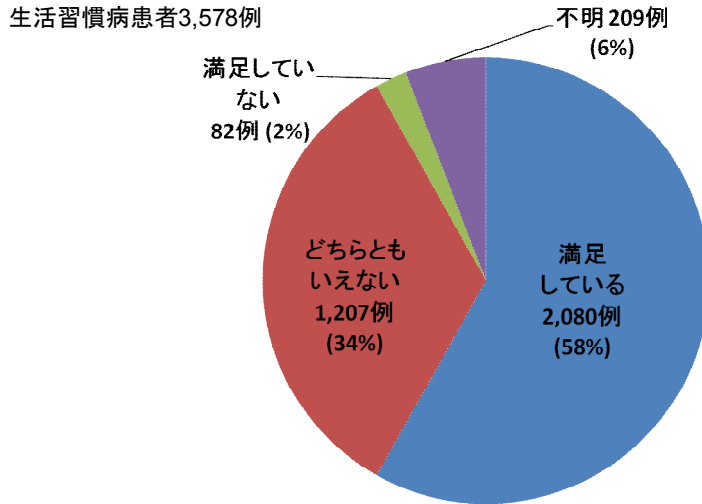


図6

生活習慣病の治療について医師や医療従事者に伝えたいこと

生活習慣病患者3,578例

※複数回答

